

オンライン上での協調学習が学習の動機づけに与える効果

目的

<背景>

- 京都外国語大学・京都外国語短期大学では反転学習型アクティブ・ラーニングを実践 ⇒ 能動的な授業活動の実践
- 反転学習として、オンライン上での協調学習を授業外において実践

<目的>

オンライン上での協調学習が「学習の動機づけ」に及ぼす影響について、半構造化インタビュー調査から質的に検討

授業実践概要

■ 対象授業の概要

- ・ 科目名「英語圏文学の理解」
- ・ 受講生：15名（短期大学 1年生）
- ・ 教材：19世紀末のイギリス文学作品
- ・ 目的：学生自身の気づきを通じ、作品の理解に不可欠な背景知識を得る

■ オンライン上での協調活動の概要

- ・ 使用したシステム：学内のLMS
- ・ 実施期間：3週間（8～10週目）
- ・ 内容：予習範囲の解釈や疑問点についてグループで話し合い ⇒ 翌週の授業で担当グループが発表
- ・ グループ構成：各3～5名で4グループ

調査方法

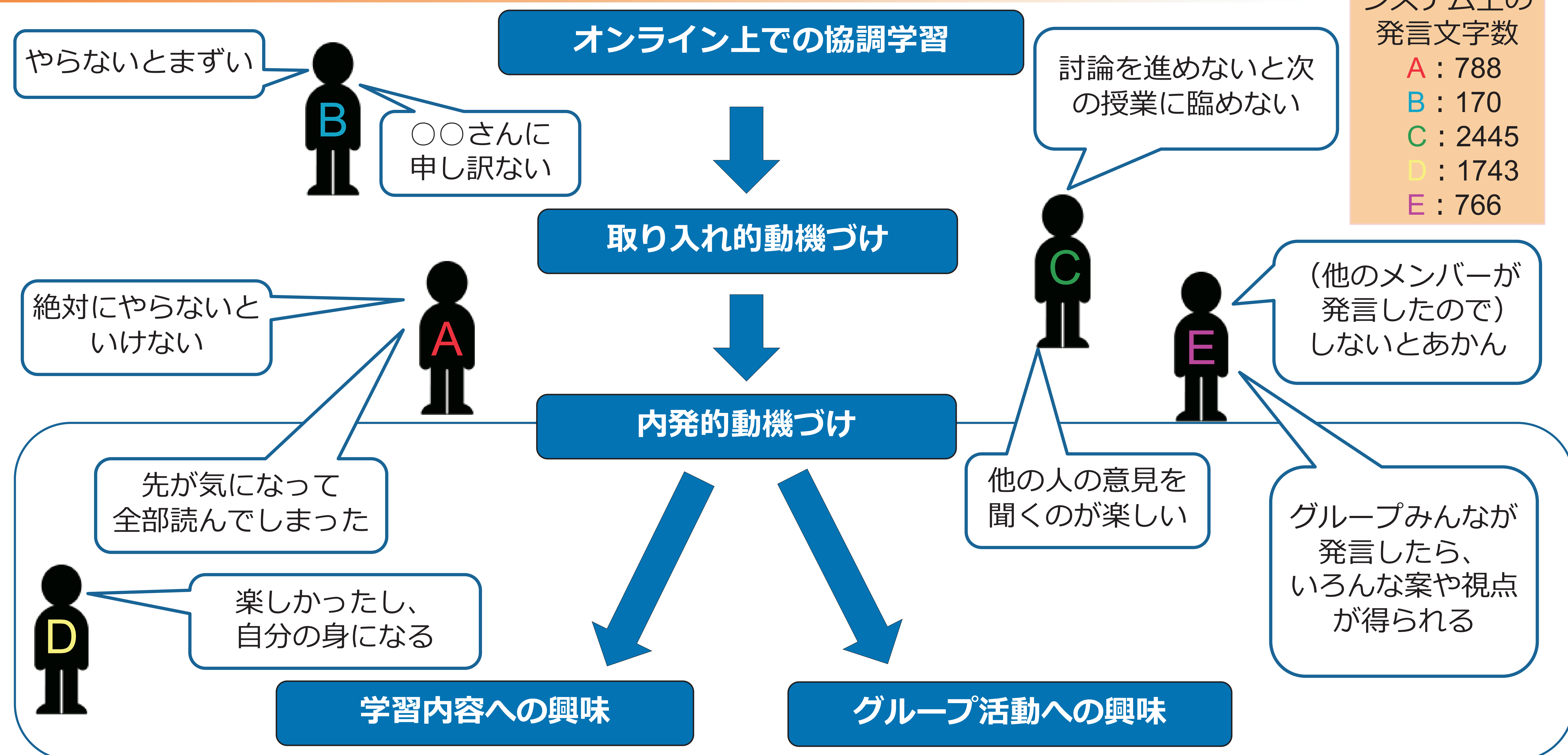
- 活動のログ：発言数をカウントし、活動状況を把握
- 質問紙調査：岡田・中谷（2006）の学習の動機づけに関する質問紙調査を事前・事後で実施 ⇒ 「取り入れ的」動機づけに若干の効果

因子	学習の動機づけの内容
外的	親や先生に強制されるから
取り入れ	不安だから、みんなの前で恥をかきたくないから
同一化	自分にとって価値のあることだから
内発	おもしろいから、わかるのが楽しいから

■ 半構造化インタビュー調査：

5名に対し約20分の個別インタビュー調査を実施

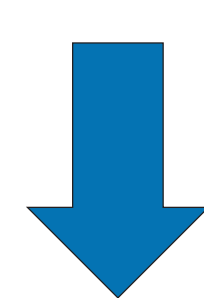
オンライン上での協調学習における学習の動機づけの変化



考察

オンライン上での協調学習の効果

- 「取り入れ的」動機づけが活動参加を促す
- 活動を通じ、より自立度の高い「内発的」動機づけが高まる場合もある



学生間の相互作用を通じ、
全般的な学習の動機づけの高まりにつながる可能性

今後の課題

- 主体的な学習意欲をより高めることができるオンライン上での協調学習とは？
- オンライン上での協調学習をどのような形で授業に反映させるか？
- 全体のカリキュラムや個々の授業に、どのようにオンライン上での活動を組み込むか？
- オンライン上での活動において教員が果たす役割とは？

